

# 病害虫 防除だより

No. 340

令和3年3月29日

## イネ苗立枯病、苗いもちの発生に注意しましょう!!

4～5月の気温は平年並みから高く、数日の周期で変わる見込みです。苗が5℃以下の低温や30℃以上の高温にあうと苗立枯病が発生しやすくなります。温度管理によって病気の発生が大きく変わるので、適正な温度管理と播種時の薬剤散布により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したものを使いましょう。

### 1)育苗温度

浸種期間・・・20℃を超えないようにする。

出芽期間・・・30℃を超えないようにする。

育苗期間・・・夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

■気温が高いと細菌性病害が発生しやすいので、快晴時には早めにハウスの換気を行う。

■夜間の温度が低いと、カビによる立枯病が発生しやすいので、保温に努める。

### 2)水管理

■天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。

■ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

### 3)床土

■病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。

### 4)薬剤防除

(※30cm×60cm×3cm)

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱*	使用回数
フザリウム菌	タチガレン液剤	播種時及び発芽後	500～1000倍	500mL土壌灌注	2回以内
ピシウム菌 ムレ苗防止	タチガレエースM液剤	播種時又は発芽後			1回
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し 播種14日後まで	500～1000倍	500mL土壌灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L土壌灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し 播種14日後まで	400～600倍	0.5L土壌灌注	2回以内
			800～1200倍	1L土壌灌注	
幼苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 褐条病 苗立枯細菌病	カスミン粒剤	覆土前	—	15～20gを 育苗箱には種した 種籾の上から均一 に散布	1回

■もみ枯細菌病等の細菌性病害は、発生後の防除薬剤はない。特に5月中旬移植用の苗で、ハウス内の高温、多湿が予想される場合は、播種時に前もって薬剤防除する。



ピシウム菌による  
苗立枯病 (ムレ苗)



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

☆最新の農薬登録情報(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt1lp301.jsp>)を確認して下さい。

農業試験場 病害虫防除室

連絡先 0776(54)5100(代)

農薬の飛散に注意しましょう

農薬の安全使用に努めて適期防除しましょう